

# 浜松市の日本語教育施策

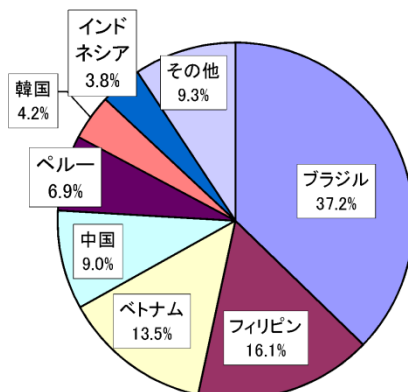
2022年6月21日(火)



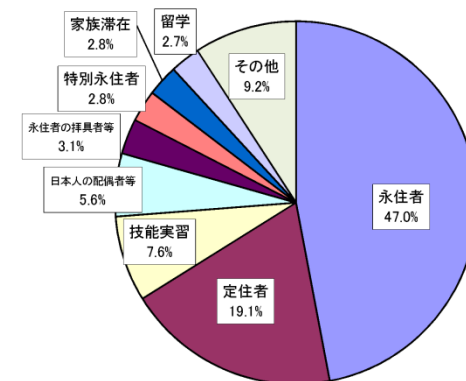
# 浜松市の概況

## ＜外国人市民の状況＞

| 国籍・地域  | 人数     | 割合    |
|--------|--------|-------|
| ブラジル   | 9,453  | 37.2% |
| フィリピン  | 4,095  | 16.1% |
| ベトナム   | 3,438  | 13.5% |
| 中国     | 2,289  | 9.0%  |
| ペルー    | 1,742  | 6.9%  |
| 韓国     | 1,054  | 4.2%  |
| インドネシア | 958    | 3.8%  |
| その他    | 2,358  | 9.3%  |
| 合計     | 25,387 |       |



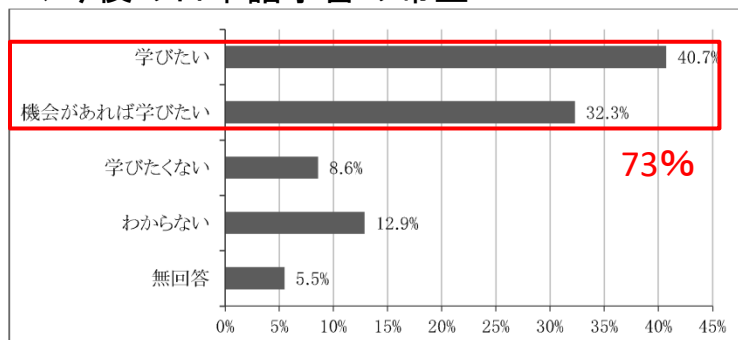
| 資格       | 人数     | 割合    |
|----------|--------|-------|
| 永住者      | 11,937 | 47.0% |
| 定住者      | 4,853  | 19.1% |
| 技能実習     | 1,942  | 7.6%  |
| 日本人の配偶者等 | 1,423  | 5.6%  |
| 永住者の配偶者等 | 798    | 3.1%  |
| 特別永住者    | 718    | 2.8%  |
| 家族滞在     | 708    | 2.8%  |
| 留学       | 679    | 2.7%  |
| その他      | 2,329  | 9.2%  |
| 合計       | 25,387 |       |



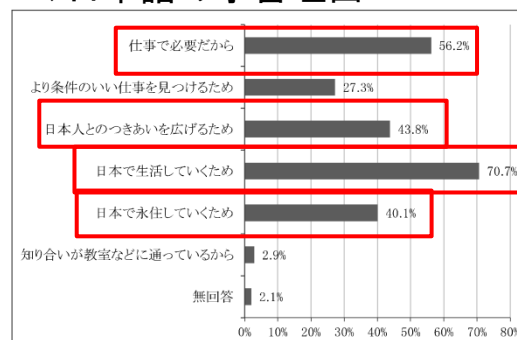
- 外国人市民数 25,387人（比率3.2%） ※2022年5月1日現在
- 1990年の改正入管法施行を機に南米日系人を中心に急増
- ブラジルなど南米系出身者が4割強を占めるが、近年はアジア系出身者の多国籍化が進む
- 永住者や定住者など長期滞在が可能な身分系在留資格の割合が7割を超え、定住化が顕著
- 輸送用機器等の製造業に従事する割合が高く、技能実習生が増加傾向

## ＜2021年度意識実態調査結果＞

### Q.今後の日本語学習の希望



### Q.日本語の学習理由



### Q.日本語能力（自己評価）

「話すこと」「聞くこと」  
➡できないは2割以下  
概して得意

「読むこと」「書くこと」  
➡4～5割ができない  
苦手意識あり

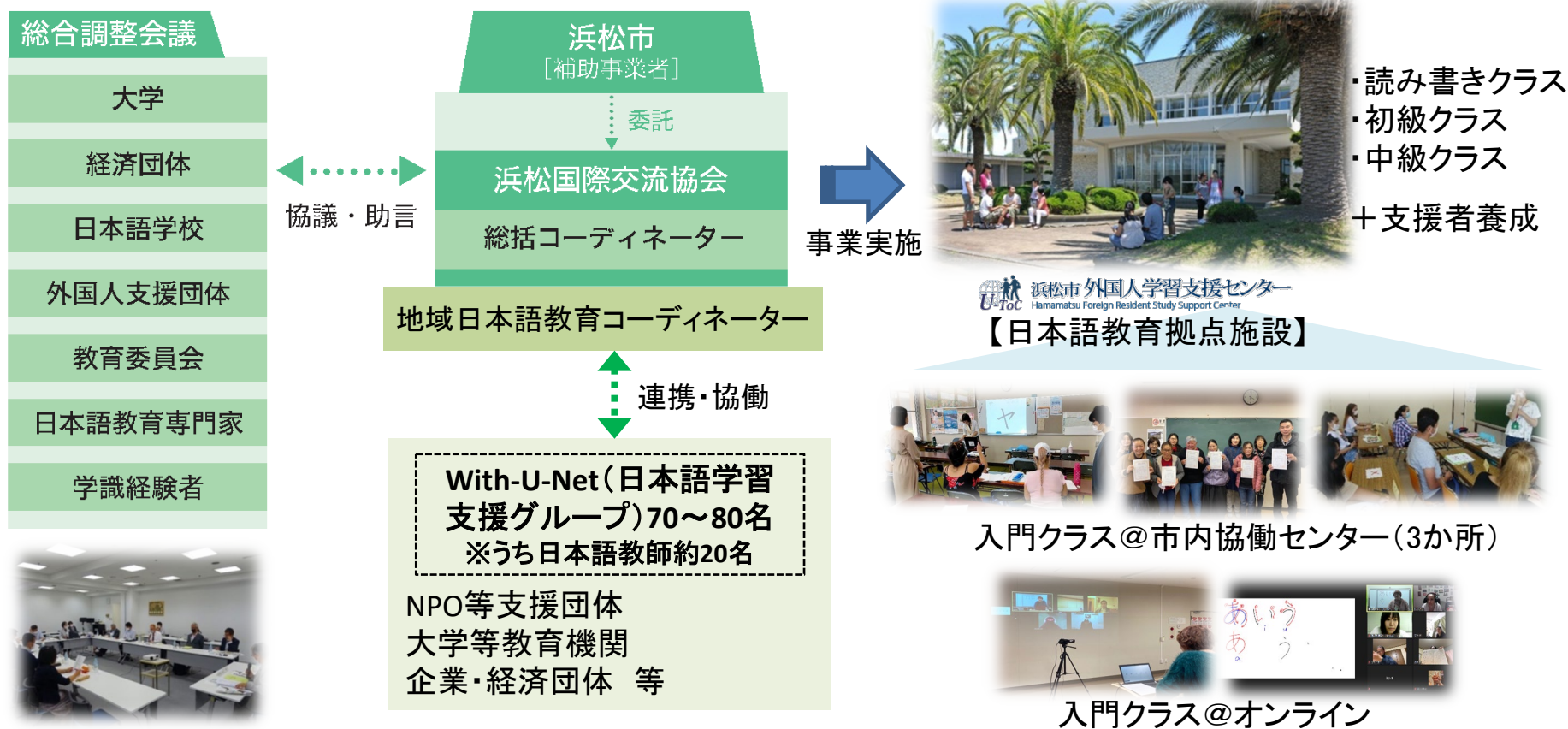
# 事業実施体制

## ＜取組の基準となる計画等＞

- 地域日本語教育推進方針  
(2020年2月策定)

## ＜実施体制＞

- 浜松市外国人学習支援センターの開設(2010年～)
- 総括コーディネーター(1名)の配置
- 地域日本語教育コーディネーター(3名)の配置
- 地域日本語教育総合調整会議の設置・開催



# 日本語教育施策

## 【多文化共生施策の指針】 浜松市多文化共生都市ビジョン

多様な文化を持つ市民が地域でともに暮らしていくための **生活言語＝日本語**

### <外国人集住都市の地域性>

- 外国人は 還流型<定住型
- 身分系在留資格が大半
- 活動系在留資格は漸増



### <推進方針>

- 日本語学習機会が公的保障されていない、身分又は地位に基づく在留資格者を主とした施策推進
- 活動に基づく在留資格者への生活者として必要な日本語習得支援の効果的な方策についての検討

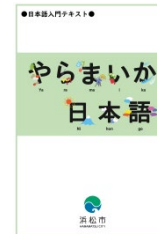
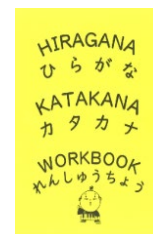
|                | 日本語教育参照枠 | 市の日本語教育施策                                                       |
|----------------|----------|-----------------------------------------------------------------|
| 熟達した言語<br>使用者  | C2       | ・外国人材雇用事業所への助成金<br>(事業所が負担するJLPT試験N2以上取得経費)<br>・NPO等支援団体への活動助成金 |
|                | C1       |                                                                 |
| 自立した言語<br>使用者  | B2       | ・中級クラス                                                          |
|                | B1       |                                                                 |
| 基礎段階の<br>言語使用者 | A2       | ・初級クラス                                                          |
|                | A1       | ・読み書きクラス<br>・入門クラス(ひらがな・カタカナ・漢字)                                |

国が示す「生活者としての外国人」に対する想定レベル⇒公的な日本語教室として一定の質を担保した  
 ※学習時間:A1～B1レベル合計435～616時間程度(目安) 浜松型の日本語学習プログラム(501時間)

# 日本語教室の内容

| クラス  | 会場                    | 回数<br>(1期分)          | 内容                                                | 日本語<br>教師    |
|------|-----------------------|----------------------|---------------------------------------------------|--------------|
| 入 門  | 協働センター<br>又は<br>オンライン | 24時間<br>(1.5h × 16回) | 初めて日本語を学習する人を対象として、ひらがな・カタカナ・基礎漢字を集中的に学習          | 4名<br>+補助者5名 |
| 読み書き | 外国人学習<br>支援センター       | 60時間<br>(1.5h × 40回) | ひらがな、カタカナ及び漢字等を学習(支援者が寄り添いグループ指導を行うことで自立学習を支援)    | 2名<br>+補助者8名 |
| 初 級  | 外国人学習<br>支援センター       | 321時間<br>(3h × 107回) | 生活者として必要な入門から初級レベルまでを学習(日本語教師がチームティーチングで指導)       | 6名           |
| 中 級  | オンライン                 | 96時間<br>(2h × 48回)   | 自立した言語使用者として生活上必要な日本語レベルまでを学習(日本語教師がチームティーチングで指導) | 4名           |

- ※ 参加費は無料(テキスト代は参加者負担)。
- ※ 各クラス定員20名。受付時にレベルチェックを実施。
- ※ 開催は前期・後期の2期制。
- ※ 教材は市販教材と独自開発教材を活用。



# 現状と課題

## 事業実施に必要な財政措置

- ・拠点施設(外国人学習支援センター)を独自設置・運営
- ・生活言語習得のための一定の質を担保した日本語教室

＜国の対応＞  
文化庁補助金や内閣府  
地方創生推進交付金の  
創設

＜課題＞  
時限的ではなく、恒常的  
で十分な財政措置  
(2022年度の市日本語教育  
関係予算:約1億円)

## 日本語教育人材の確保と育成

- ・日本語教師は雇用関係になく、謝金対応のため確保が困難
- ・学習支援者の高齢化が進み、若い世代の担い手不足

＜国の対応＞  
日本語教師の国家資格化  
の検討や地域日本語教育  
コーディネーターの育成

＜課題＞  
日本語教師の国家資格化  
(公的な身分保障)と質を  
維持する研修の仕組み、  
安定して活躍できる場の  
提供(配置の必須化等)

## 事業所の責務のより明確化

- ・NPO等主催の教室には技能実習等の活動系在留資格が6割
- ・事業所の日本語研修奨励は25%に留まる

＜国の対応＞  
日本語教育推進法の中  
で事業所の責務を明記

＜課題＞  
現行の努力義務以上の  
責務の明確化と財政的  
支援を含めた実効性の  
高い仕組み

雇用する外国人等及びその家族に対する日本語学習の機会の提供その他の日本語学習に関する支援に努める(第6条関係抜粋)



# 今後の方向性

## (1) 地域日本語教育アクションプランの策定

- 「地域日本語教育推進方針」(2020年2月策定)をより効果的かつ実効性の高い取組とするため、外国人市民の生活実態や日本語学習ニーズなどに加え、客観的な日本語能力調査を反映させたビジョンや課題、対応策、優先事業等を取りまとめたアクションプランを2022年度中に策定する。

## (2) 浜松型・日本語学習プログラムの充実

- 日本語教育参照枠を踏まえ、A1～B1相当レベルまで対応型に2022年度からリニューアルした市主催の公的な日本語教室の一層の充実を図る。
- 外国人材の日本語学習支援に取り組み、責務を果たす事業所を応援する新たな仕組み「外国人材等日本語学習支援事業費補助金」を継続する。

## (3) 日本語教育人材の確保と育成

- 地域の大学2校と連携実施している教育実習の受入れやオンライン連携教室の開催に引き続き取り組み、次世代の担い手の育成・確保に努める。
- 日本語教師は専門性及び質の維持・担保のため、今後も毎年度、模擬授業等の実施を必須とした更新制とし、定期的な研修等も実施する。

あくまで将来的な理想として・・・

認定日本語教育機関として雇用関係にある「登録日本語教員」の一定数配置

# 生活者のための日本語教育 浜松市における地域日本語教育実践

浜松市地域日本語教育総括コーディネーター  
公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)



内山 夕輝



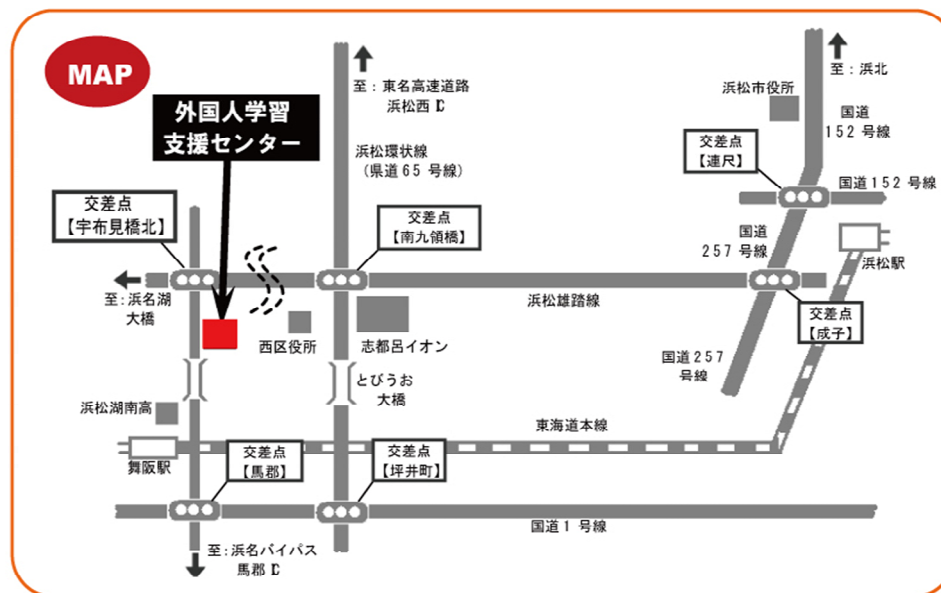
# 浜松市における地域日本語教育実践



## 浜松市 外国人学習支援センター

Hamamatsu Foreign Resident Study Support Center

Centro de Apoio ao Estudo para Estrangeiros de Hamamatsu



〒431-0102 静岡県浜松市西区雄踏町宇布見9611-1  
9611-1 Ubumi, Nishi-ku, Hamamatsu-shi, Shizuoka  
Tel. 053-592-1117 Fax. 053-592-1179  
<http://www.hi-hice.jp/u-toc/>



U-ToC

## 地域日本語教育の拠点として 浜松市外国人学習支援センター日本語教室

| クラス  |              | 目的                                                                             | 教材                                                | 担い手                           | 開催日時                                                | 時間数                             |
|------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------|---------------------------------|
| 初級   | 対面<br>(教室形式) | 初級レベルの日本語の習得<br>(総合+N4+プロジェクトワーク)                                              | 市販テキスト<br>(総合、N4)<br>オリジナル<br>テキスト<br>(プロジェクトワーク) | 日本語教師                         | 月～金<br>9:30～11:30<br>(10コマ)<br>9:30～12:30<br>(97コマ) | 全107コマ<br>・計321時間<br>／期<br>年間2期 |
|      | オンライン        | 中級レベルの日本語の習得                                                                   | 市販テキスト                                            | 日本語教師                         | 月・水・金<br>13:30～<br>15:30                            | 全48コマ・<br>計96時間<br>／期<br>年間2期   |
| 読み書き |              | 自律学習の支援、<br>学習を通じた交流、<br>学習待機者ゼロ<br>(ひらがな・カタカナ<br>・語彙・生活漢字・<br>検定漢字・多読・<br>読解) | オリジナル教材、市販テキストなど                                  | 日本語教師<br>＋<br>ボランティア<br>(シフト) | 火・木<br>13:30～<br>15:00                              | 全40コマ・<br>計60時間<br>／期<br>年間2期   |

## 地域日本語教育の拠点として 浜松市外国人学習支援センター日本語教室

### 【特徴】

|                     |                                                                      |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------|
| コーディネーター<br>(日本語教師) | 総括コーディネーター1名<br>地域日本語教育コーディネーター3名(1名総括が兼任)                           |
| 内容                  | 受講前後にレベルチェック(HAJACテスト)<br>さくら連絡網(アプリ)の活用<br>教師による日本語指導とボランティアによる学習支援 |
| 費用                  | 無料(託児も無料)                                                            |
| 対象                  | 浜松市在住・在勤の外国人<br>身分系の在留資格保持者                                          |
| アクティビティ             | 校外学習、防災訓練、日本語発表会、おしゃべりタイム                                            |
| 連携                  | 多文化共生センター多言語相談(弁護士、行政書士等)<br>大学日本語教員養成課程在籍学生による教育実習                  |

## その他の浜松市日本語教室（公営）

| クラス                          | 会場              | 実施主体             | 開催日時                        |
|------------------------------|-----------------|------------------|-----------------------------|
| ひらがな・カタカナ・漢字クラス<br>（全16コマ/期） | オンライン           | 浜松市外国人学習支援センター   | 火<br>19:00～<br>20:30<br>年2期 |
|                              | 浜北区<br>浜名協働センター | NPOフィリピンナガイサ（委託） | 土<br>13:00～<br>14:30<br>年1期 |
|                              | 南区<br>白脇協働センター  | にほんごNPO（委託）      |                             |
|                              | 東区<br>蒲協働センター   | 静岡県ベトナム人協会（委託）   |                             |

2019年度の実態調査の結果から、聞く話すに比べて読み書きができない人の割合が高かったことを受け、文字学習を行うこととした。



## 地域日本語教育の拠点として 浜松市外国人学習支援センターの紹介動画



<https://youtu.be/lxKQQRHfwHk>

YouTube HICEチャンネルに  
様々な動画があります！







# 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を活用した 地域日本語教育の歩み ～国と自治体と地域の連携の事例から～

公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）<sup>ハイス</sup>

## 2019

### 日本語教育の推進に関する法律公布施行

文化庁は、地方公共団体が域内の日本語教育環境を強化し、総合的な体制づくりをするための「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（補助率1/2）」を開始。  
浜松市は同事業を活用し「浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を実施（HICE が受託）した。

## 2018

### 文化庁委託 浜松グローバルユース育成検討事業

地域国際化協会として、日本に在住する外国人の若者の育成と、多文化を持つ彼らの価値の発信を行うため、2020年に実施される東京オリンピック・パラリンピックに向けたグローバルユース養成講座のカリキュラムを開発した。  
また、外国人学校に通う高校生を対象に日本語プロジェクトワークを実施した。本事業により、外国人学校に通う若者らの日本語に関する実態や日本語学習環境整備の難しさ等課題が見えてきたとともに、若者らが将来日本で社会人として生活するのに必要な力について、議論が発展的に進んだ。



## 2017

### HICE35周年記念事業

## 2015

### 文化庁委託 浜松版地域日本語教師育成検討事業

2014年度に明らかになった学習ニーズの多様性に対応するために、地域日本語教師の育成について検討した。地域の課題を把握し、効果的なカリキュラムを組み立て、適切な授業を行える人材を育てるため、地域日本語教師養成講座カリキュラムを開発し、実施に向けて関係機関との連携を深めた。  
また、地域日本語教室では実施が難しい中級以上のクラスを設け、日本社会で活躍する人材として必要な日本語や日本文化について学ぶ機会を創出した。



## 2016

### 文化庁委託 浜松版地域日本語教師養成事業

2015年度に開発した浜松版地域日本語教師養成講座を実施した。理論を学ぶ前半は公開講座、実践を学ぶ後半は日本語教師を対象とした。地域で活動する日本語教師の数的不足と、地域の実情にあわせて日本語を指導できる質の確保を目的に講座を実施したが、養成だけではなく、日本語教師が地域で活動できる場の創出が必要であることが課題として確認された。  
また、初級を終え仕事や育児が始まった学習者の学び直しニーズに対応するために、U-ToCにて初中級クラスを試行した。これを機に、公的な日本語教育における学習機会提供の対象やレベル設定について検討が深まった。



## 2014

### 文化庁委託 浜松市日本語教育連携推進事業

2013年度の連携会議で共有された課題である、市内全域、全日程での日本語教室開催に向けて、NPO団体と協働で日本語教室の運営を試した。



開催曜日、時間、場所が違うことによる学習者の背景や学習ニーズの多様性が明らかになり、それら特徴に対応できる地域日本語教師の育成が急務となった。また、この年より3年にわたり、定住外国人による「写真で語る私の歴史」（フォトストーリーテリング）イベントが開催された。

## 2013

### 文化庁委託 浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム（HAJACシステム）普及事業

2012年度に開発した浜松版日本語コミュニケーション能力テスト（HAJACテスト）をU-ToC日本語教室の進級テストとして活用した、HAJACシステムの運用を始める。  
またHAJACテストの活用を踏まえた連携について、日本語教育関係者らと協議を行う。その他、敬語や内と外との使いわけ等について学べる「ていねいな日本語」教室を開催。定住化が進む外国人の学習ニーズの変化が明らかになった。



## 2012

### 文化庁委託 浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム（HAJACシステム）策定事業

日本語教育の成果を見える化し、プログラムの改善や学習意欲向上の働きかけを促すために、「日本人の家族」と「就労者・求職者」を対象とした評価システムを検討し、浜松版日本語コミュニケーション能力テスト、評価基準、運用システムを開発した。  
また評価基準策定を機に、日本語教師と日本語ボランティアの役割を明確にし、それぞれの長所を生かした活動を推進することが必要だとわかった。

## 2011

### 文化庁委託 PDCA型日本語教室づくりのための日本語ボランティア研修

## 2010

### 浜松市外国人学習支援センター（U-ToC）開設

HICEは浜松市国際課よりU-ToCの運営委託を受け、地域学校型日本語教室を始める。

## 2007～

### 文化庁事業活用開始

HICEは地域日本語教育の課題解決に取り組み始める



# 文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用した 「浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」の歩み

事業受託者：公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）

## 第1次 浜松市における地域日本語教育の 総合的な体制づくり推進事業（文化庁補助B）

# 2021

2020 年度事業を拡大展開。

- ・地域日本語教育コーディネーター配置（3 名）
- ・浜松市日本語教室の地域展開（ひらがなカタカナ教室を開催。平日夜間1@オンライン、週末昼間3@浜北区、南区、東区で開催、教室形式および地域を拡充。教室は地域の NPO 団等に再委託）
- ・企業におけるやさしい日本語研修
- ・大学と連携した日本語教育人材養成（常葉大学 × 天竜日本語教室 × ICT）
- ・地域日本語教室ネットワーク会議（子供支援団体も参加）



# 2021

## 第1次 浜松市における地域日本語教育の 総合的な体制づくり推進事業（文化庁補助B）

# 2022

2021 年度事業を改善して継続。さらに、次年度以降の第 2 次体制づくり事業に向けて、日本語能力実態調査を行い、アクションプラン策定の支援を行う。

- ・地域日本語教育コーディネーター配置（3 名）
- ・浜松市日本語教室の地域展開（漢字学習ニーズに応えるため、ひらがなカタカナ漢字教室を開催。浜松版生活の漢字テキスト（仮）を作成する。教室は地域の NPO 団等に再委託）
- ・企業におけるやさしい日本語研修
- ・大学と連携した日本語教育人材養成（常葉大学 × 天竜日本語教室 × ICT）（静岡文化芸術大学学生の日本語教育実習受入れ）
- ・地域日本語教室ネットワーク会議（子供支援団体も参加）

## 日本語能力実態調査

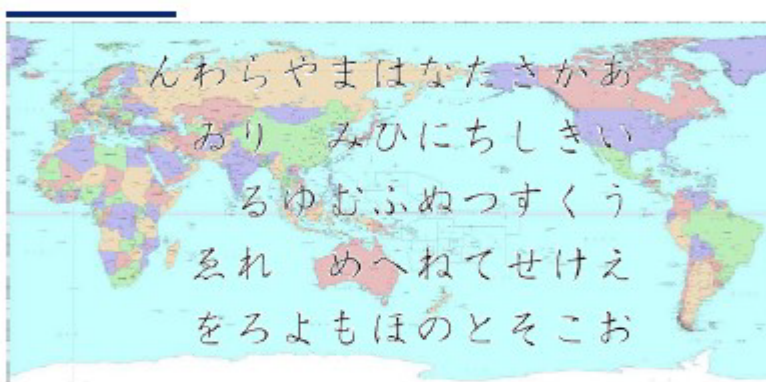
浜松市在住・在勤・在学の外国人 500 人対象に、オンライン日本語テストおよび日本語使用状況アンケートの実施

支援者らにヒアリングの実施

HIRAGANA  
ひらがな  
KATAKANA  
カタカナ  
WORKBOOK  
れんしゅうちょう

# 2020

やさしい日本語研修  
ワークブック(入門編)



# 2020

# 2020

## 第1次 浜松市における地域日本語教育の 総合的な体制づくり推進事業（文化庁補助B）

2019 年度に策定された浜松市地域日本語教育推進方針を基に事業を実施。

- ・地域日本語教育コーディネーター育成
- ・浜松市日本語教室の地域展開（2019 年調査結果から、ひらがなカタカナ会話教室を開催。平日夜間1@中区、週末昼間2@浜北区、南区で開催し、時間帯および地域を拡充。教室は地域の NPO 団等に再委託）
- ・企業におけるやさしい日本語研修
- ・ICT を活用した日本語学習試行
- ・地域日本語教室ネットワーク会議

# 2019

## 浜松市地域日本語教育推進方針

- ①推進体制の整備
- ②学習機会の確保・充実
- ③日本語教育に携わる人材の養成
- ④企業・経済団体との連携

# 2019

## 浜松市における地域日本語教育の 総合的な体制づくり推進事業（文化庁補助A）

体制づくりのための基礎データを得るため、日本語教育実態調査を行った。

- ・企業における外国人材活用意識調査
- ・地域における日本語教室実態調査
- ・日本語学習者実態調査
- ・外国人の若者の日本語力調査

これらの調査結果をもとに、市民、企業、行政が連携した日本語教育体制づくりを検討。また、浜松市地域日本語教育推進方針も策定された。

## 日本語教育の推進に関する法律公布施行

文化庁は、**地方公共団体**が域内の日本語教育環境を強化し、総合的な体制づくりをするための「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業（補助率1/2）」を開始。浜松市は同事業を活用し「浜松市における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を実施（HICE が受託）した。

# 2019

## 2007~2018

文化庁  
「生活者としての外国人」  
のための日本語教育  
事業を受託（HICE）